

今回のテーマは「検証！鳥のことわざ」でした。鳥にまつわることわざや慣用句をテーマに野鳥観察を行いました。手賀沼ではマガモやコガモなどの冬鳥が見られました。

植物の中には名前に「スズメ」や「カラス」がついたものがあり、案内人の伊東さんが作った植物標本を使って名前の由来などを解説しました。



今月の案内人 伊東茂子さん



① メジロやヒヨドリが蜜を好んで食べるサザンカの花



② ウメの幹で見つけたツクツクボウシの抜け殻

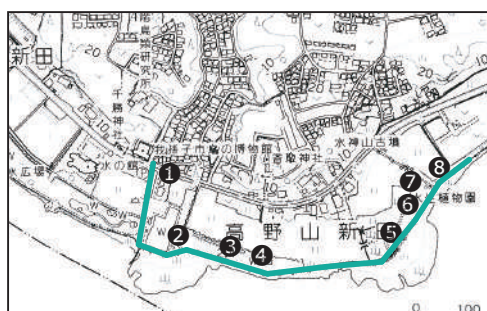


③ 夫婦円満や平和の象徴とされるハト (写真はキジバト)



④ 人の顔のような模様が特徴的なビジオニグモ

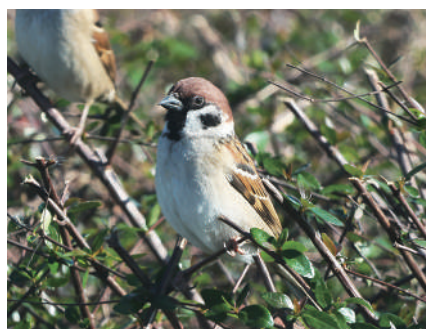
歩いたルートと観察した生き物



⑤ 離れた場所からでもよく目立つ鮮やかな黄色のセンダンの実



⑥ 手賀沼遊歩道沿いで頻繁に見られたモズ



⑦ ことわざや慣用句によく使われるスズメ



⑧ 「トンビがタカを生む」でお馴染みのトビ

今月の鳥 カワウ

カワウは手賀沼で一年を通してよく見られる水鳥です。泳ぎが上手で、魚や甲殻類などを潜水して捕まえます。春になると水辺の森林にコロニーをつくり、集団で繁殖します。

明治前期から昭和中期の資料には手賀沼でのカワウの確かな観察記録はなく、1970年代から記録されるようになり、その後個体数が増えていきました。



よく見ると茶色味がある羽毛



翼を広げて羽を乾かす姿

2025 年 12 月のてがたんは当日受付にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回のとがたんは 1 月 10 日（土）で、テーマは「命のタイムカプセル」です。ぜひご参加ください。市民スタッフの皆さま、次回の下見は 12 月 28 日（日）です。

12 月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→鳥の博物館
- 観察日時／天気：2025 年 12 月 13 日（土）10：00～12：00／晴れ
- 観察会参加者：10 名（大人 8 名、子ども 2 名）
- 市民スタッフ：8 名（石原直子、**伊東茂子**、北村章子、小泉伸夫、伴野茂樹、弘實さと子、古澤紀元、湯瀬一栄）
- 鳥博職員：1 名（村松和行）

— 観察した生き物の記録 —

下見で見られたものを含む

【鳥類】カモ科：ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ／カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ／クイナ科：クイナ（声）、オオバン／カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ／ミサゴ科：ミサゴ／タカ科：オオタカ、トビ、ノスリ／カワセミ科：カワセミ／モズ科：モズ／カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス（声）／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：ジョウビタキ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ／アトリ科：ベニマシコ（声）、カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ（声）、オオジュリン（声）／家禽や外来種：ドバト（ハト科）

【昆虫】バッタ目：オカメコオロギ、ハネナガヒシバッタ／チョウ目：キタキチョウ、モンキチョウ、モンシロチョウ、マイマイガ（卵）／ハチ目：オオスズメバチ／カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、ツクツクボウシ（抜け殻）ピワコカタカイガラモドキ／カマキリ目：ハラビロカマキリ（卵）／トンボ目：アキアカネ

【クモ】ビジョオニグモ

【花】キク科：オニノゲシ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、ヒメジョオン、コセンダングサ／カタバミ科：カタバミ／アブラナ科：ナズナ／シソ科：ホトケナザ／オオバコ科：オオイヌノフグリ／ツバキ科：サザンカ

【実】センダン科：センダン／クスノキ科：シロダモ／モクセイ科：トウネズミモチ／アオキ科：アオキ／バラ科：トキワサンザシ／アカネ科：ヘクソカズラ／ウリ科：カラスウリ